

観察した鳥類チェックリスト

- | | | | |
|-------------|------------|-----------|-----------|
| ★キジ目 | ★ツル目 | ★ハヤブサ目 | □ ツグミ |
| ・キジ科 | □ クイナ | ・ハヤブサ科 | □ ジョウビタキ |
| □ キジ | □ バン | □ チョウゲンボウ | ・スズメ科 |
| ★カモ目 | □ オオバン | □ ハヤブサ | □ スズメ |
| ・カモ科 | ★チドリ目 | ★スズメ目 | ・セキレイ科 |
| □ コブハクチョウ | ・チドリ科 | ・モズ科 | □ キセキレイ |
| □ オカヨシガモ | □ タゲリ | □ モズ | □ ハクセキレイ |
| □ ヨシガモ | □ ムナグロ | ・カラス科 | □ セグロセキレイ |
| □ ヒドリガモ | □ コチドリ | □ カケス | □ タヒバリ |
| □ マガモ | ・セイタカシギ科 | □ オナガ | ・アトリ科 |
| □ カルガモ | □ セイタカシギ | □ ハシボンガラス | □ カワラヒワ |
| □ ハシビロガモ | ・シギ科 | □ ハシブトガラス | □ アトリ |
| □ オナガガモ | □ タシギ | ・シジュウカラ科 | □ ウソ |
| □ コガモ | □ イソシギ | □ ヤマガラ | □ シメ |
| □ ホシハジロ | ・タマシギ科 | □ シジュウカラ | □ コイカル |
| □ キンクロハジロ | □ タマシギ | ・ヒバリ科 | ・ホオジロ科 |
| □ ミコアイサ | ・カモメ科 | □ ヒバリ | □ ホオジロ |
| ★カイツブリ目 | □ ユリカモメ | ツバメ科 | □ カシラダカ |
| ・カイツブリ科 | □ セグロカモメ | □ ツバメ | □ アオジ |
| □ カイツブリ | □ オオセグロカモメ | ・ヒヨドリ科 | □ オオジュリン |
| □ カンムリカイツブリ | ★タカ目 | □ ヒヨドリ | □ |
| □ ミミカイツブリ | ・ミサゴ科 | ・ウグイス科 | □ |
| □ ハジロカイツブリ | □ ミサゴ | □ ウグイス | □ |
| ★ハト目 | ・タカ科 | ・エナガ科 | □ |
| ・ハト科 | □ トビ | □ エナガ | □ |
| □ キジバト | □ チュウヒ | ・メジロ科 | □ |
| ★カツオドリ目 | □ ツミ | □ メジロ | (外来種や家禽) |
| □ カワウ | □ ハイタカ | ・ヨシキリ科 | バリケン |
| ★ペリカン目 | □ オオタカ | □ オオヨシキリ | ガチョウ |
| ・サギ科 | □ ノスリ | ・セッカ科 | アヒル |
| □ ヨシゴイ | ★ブッポウソウ目 | □ セッカ | ドバト |
| □ ゴイサギ | ・カワセミ科 | ・ムクドリ科 | |
| □ アマサギ | □ カワセミ | □ ムクドリ | |
| □ アオサギ | ★キツツキ目 | ・ヒタキ科 | |
| □ ダイサギ | ・キツツキ科 | □ シロハラ | |
| □ チュウサギ | □ コゲラ | □ アカハラ | |
| □ コサギ | | | |

【3月のテーマ】

鳥 帰 る

案内人：木村 稔

3



編隊を組んで飛ぶマガンの群れ

今月のテーマ「鳥帰る」は、春を表す俳句の季語です。

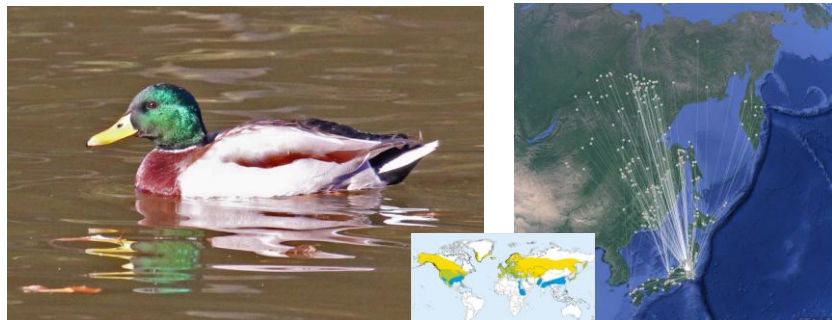
北国で子育てする鳥たちの多くは、地表が雪や氷で閉ざされる冬になると、餌を採ることができる地域に南下します。そこで一冬過ごし、春になると北の生まれ故郷に帰ります。

戦前まで関東平野はマガンの一大越冬地となっていました。大型の鳥が編隊を組んで北へ向かう光景に、人々は大自然の神秘を感じたにちがいません。

現在、手賀沼周辺にマガンの越冬地はありませんが、カモの仲間・ツグミ・アオジなど冬鳥は多く、これらの鳥たちは春になると北へと旅立ちます。

2020年3月14日（土）10:00～12:00

北へ帰る鳥たち（冬鳥）の故郷はどこ？



マガモ（10月～3月）



コガモ（9月～4月）



オナガガモ（10月～3月）

★各種の写真の右の図は、「鳥類アトラスWEB版」*1からの引用です。鳥類標識調査*2のこれまでの結果が表示されています。同じ鳥の放鳥地点と回収地点を結んだ直線が示されています。



ユリカモメ（10月～4月）



ツグミ（11月～4月）



アオジ（11月～4月）

★写真の鳥の和名の後の（ ）内は、手賀沼でよく見られる時期です。

★各種の分布図は、Handbook of the Birds of the World Aliveから引用しました。ツグミとアオジは、日本鳥類目録改定第7版の分類に合わせて分布域を調整しています（黄：繁殖分布域、青：越冬分布域、緑：周年分布域）。

*1:鳥類アトラスWEB版→<http://www.biodic.go.jp/birdRinging/index.html>

*2:鳥類標識調査…鳥に足環などの標識を装着して個体識別し、移動の経路の解明などを目的とした調査です。現在鳥の博物館では、鳥類標識調査を紹介した第86回企画展「バンディング展～足環でわかる鳥の渡り～」を開催中です。ぜひご覧ください。